

小野上中学校体育館耐震補強事業は見直し

小野上中学校の体育館は耐震診断でIS値0.2(0.3以下は問題あり)と診断され、耐震補強が予算化されましたが、建築後44年が経過していることや地域審議会のなかでも耐震補強よりも建て替えを望む声があることなど、見直しをすることになりました。「場所や建築がいつ頃になるのか決まっていない段階で耐震補強をしないのはおかしい」などの声もあります。今後、住民説明と建築に向けての計画をはっきりさせる必要があると思います。

3月定例会開催される

3月定例会が3月1日から29日まで開催され、慎重審議の結果、原案の通り可決されました。主な内容は次の通りです。

渋川市地域振興基金条例を制定

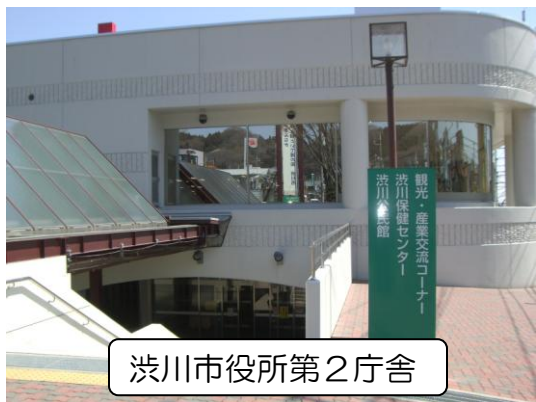
市民の連帯の強化又は地域振興を図るため、基金を設置するもので、年5億円の予算で5年間積み立て、25億円とするとの説明がされました。この財源は合併特例債を利用し、150億円の合併特例債の枠とは別に合併特例債限度額の422億円の枠内で行うとしています。償還年度は平成32年度とし、返済金額は7億7000万円となります。合併15年後には、23億円の地方交付税の削減が見込まれることから、償還後には地域振興を図る事業の財源に充てることもできます。また、基金の運用から生ずる収益は、一般会計に計上して、この基金に繰り入れるものとします。

渋川市立幼稚園第3子以降の保育料を免除

幼児の保護者が貧困のため保育料を納めることができない事情にあるときは、保育料を減額し、又は免除することができるとなっていました。また、条例改正により「子育て世帯の支援を目的として、第3子以降の保育料を免除することが出来る」の項が追加されました。

渋川市消費生活センターを移設

渋川市消費生活センターは北庁舎2階にありましたが、第2庁舎1階の産業交流コーナーに移設されました。相談室や体制も整備され、悪徳商法や振り込め詐欺などの相談や啓発などに対応しています。昨年度は550件の相談がありました。不審に思ったことや情報提供など、消費生活センターに問い合わせてください。



渋川市役所第2庁舎

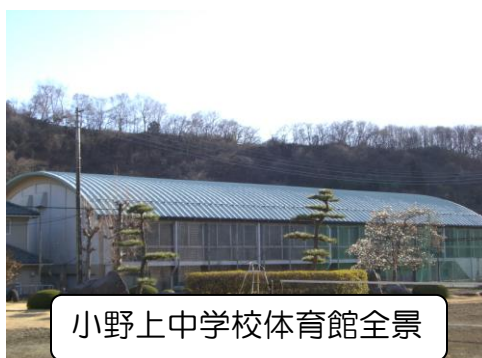


移設した消費生活センター



渋川市議会議員
しのだ 徳寿

[後援会事務所]
大同特殊鋼(株) 渋川工場労働組合内
TEL 0279-23-5198
FAX 0279-24-3820
ホームページ
<http://geo.t-shinochan55.com/>
篠田徳寿でも検索できます。



小野上中学校体育館全景



小野上中学校体育館西側

渋川総合病院の医業収益減額に伴い

一般会計より8000万円を負担

入院患者及び外来患者の減少により、医業収益が3億円(入院収益2億5000万円、外来収益5000万円)減少することに伴い、負担金として一般会計より8000万円を病院事業会計に繰り入れるものです。病院改革プランにより渋川市として3億9800万円を負担しています。今年度の合計は4億7800万円となります。累積未処理欠損金(赤字)は今年度の2億1800万円を加えると、12億1500万円となります。

今後とも厳しい病院運営が予想されますが、医師や看護師の確保をはじめ、昨年導入した高精度放射線治療機(リニアック)の稼働率を上げることなど、地域医療の拠点病院として今後の取り組みが求められます。

地域医療の充実に向けた 病院再編統合について

圏域（渋川市、榛東村、吉岡町）の住民が、身近な医療機関で安心して診療を受けられるよう、圏域が自立した二次医療圏として機能していくため、圏域内の中軸を担う本市として、西群馬病院の移転整備に合わせ、渋川総合病院の再編統合を行い、圏域内の中核となる病院整備を進めるものです。

圏域の自足率（圏域内の住民が圏域内の医療機関で受療している割合）は、入院60・7％、外来76・1％で、前橋医療圏へは入院21・9％、外来15・1％が流出しています。救急搬送先では、圏域内の受け入れは53・4％であり、前橋医療圏に34・5％が搬送されています。

渋川総合病院は平成21年3月に「病院改革プラン」を策定し経営の安定化を進めていますが、将来的な経営・運営等に課題を抱えています。西群馬病院は建築から40年を経過し、老朽化が目立ち、医療の高度化への対応、患者の利便性の向上を図るため、病院施設の移転を計画しています。新病院には、西群馬病院の診療機能に、渋川総合病院の持つ救急、災害、感染症医療の診療機能を統合することにより、地域住民の身近な病院としての充実を図ります。また、新病院の経営主体は西群馬病院とし、渋川総合病院は廃止します。

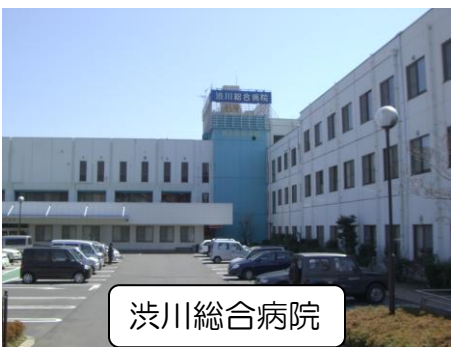
これらの基本的な考えを踏まえ、国の地域医療再生臨時特例交付金を活用するため、県が策定する地域医療再生計画に係る事業提案を市と西群馬病院とが共同して提出し、病院再編統合に必要な財源を確保します。

本市の事業提案の概要は、平成23年度に用地取得、平成24年度に詳細設計、平成25年度に本体工事、総事業費は約130億円、病床数は450床としています。

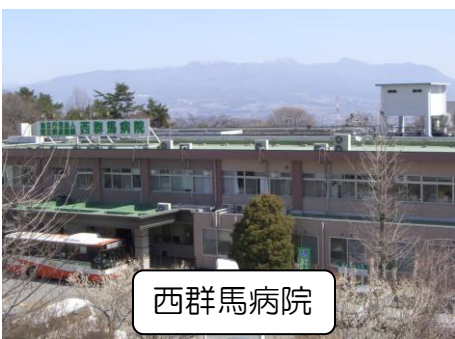
今後は、職員の引き継ぎや財政負担など、西群馬病院と調整及び協議を行うこととなりますが、病院再編統合を円滑かつ効果的に進めるため、企画部内に、「病院再編統合準備室」を設置します。

・西群馬病院の概要（平成21年度病院年報）

病床数380床、職員数281人（医師28人、看護職180人、薬剤師7人、医療技術者等52人、事務職14人）入院（一日平均310・6人）、外来（一日平均125・1人）、経常利益3億816万円



渋川総合病院



西群馬病院

渋川警察署の移転候補地について

渋川警察署の庁舎は、築44年が経過し、老朽化が顕著なうえ、狭隘な敷地のため、来訪者への利便性や業務全般に支障を来しています。この間、渋川警察署では、庁舎の移転改築に向けて検討を進める中で、移転候補地について渋川市に情報提供の依頼があったものです。

渋川市としても市民の安全安心、治安維持などの観点から移転候補地の情報提供について協力することとしました。

市としては、これまでの経過を踏まえ、ベイシア渋川店南の市有地（南部小予定地）を、教育財産から普通財産に所管換えを行ったうえで、渋川警察署移転候補地とすることとしました。

渋川警察署移転候補地

今後のスケジュール	
平成23年度	地質調査
24年度	用地取得及び 基本・実施設計 埋蔵文化財調査
25年度	本体工事着工
26年度	本体工事完了

東北地方太平洋沖地震の対応と方針

この度の東北地方太平洋沖地震に伴い、渋川市でも多くの建物の屋根瓦落下被害が発生しました。このため、渋川市災害見舞金支給要綱に基づき、災害見舞金の支給を行います。支給対象は市が実施した災害調査により確認されたもの及び申請のあったものです。

見舞金額は次のとおりです。

- ・屋根瓦落下等の被害が建物全体の50％未満 1万円
- ・屋根瓦落下等の被害が建物全体の50％以上 2万円

被災地への義援金及び支援物資の受け入れについて

募金箱は、本庁舎、第2庁舎、各総合支所、公民館9カ所及び図書館の計17カ所に設置。支援物資は、渋川市民体育館で受入れています。（午前9時～午後4時）

平成23年度予算

平成23年度一般会計の予算規模は、342億4300万円、前年度比3・2％の増額となり、各特別会計、水道事業会計及び病院事業会計を合わせた総額では、603億1134万6000円で、2・8％の増額となりました。予算編成方針では、「市民とのつながりと信頼を深めた協働の推進」についてと環境の先進地としての取り組みを市長に質問しました。市長は、市民が積極的に参加できる取り組みを進めていきたい。環境についても太陽光発電や地域の特色を生かして取り組むとの答弁がされました。